



m
with
ANNIVERSARY
Musashino Academia Musicae

MUSASHINO *for* TOMORROW

[特別対談]

聴き手の感情や思考を動かす表現者として

坪井直樹 | テレビ朝日 アナウンサー

福井直昭 | 武蔵野音楽大学理事長・学長

Vol.149

Sep 2026





特別対談

聴き手の感情や思考を動かす表現者として

坪井直樹 テレビ朝日
アナウンサー

福井直昭 武蔵野音楽大学
理事長・学長

テレビ朝日系の朝の報道情報番組『グッド! モーニング』——年間平均視聴率が同放送時間帯でトップ(2025年調べ)を誇る人気番組の総合司会を務めるのが、福井学長の大学時代の同期生で同局アナウンサーの坪井直樹さんです。高校・大学時代にはオーケストラでヴァイオリンを弾き、現在も多くのクラシックコンサートで司会を務める坪井さんと福井学長との対談は、アナウンサーと演奏家の共通性をあぶり出し、それぞれに必要なスキルを再確認するような充実の内容になりました。同期生ならではのフレンドリーかつウイットに富んだスペシャルトークを存分にお楽しみください(2026年6月6日実施)。

音楽漬けの高校・大学時代

福井: では、名前が似ている同期生対談を始めます(笑)。

坪井: ハハハ! 普段自分は聞き手の方が多いので、意外とこういう対談って珍しいんです。丸腰で来たけど大丈夫?

福井: ヴァイオリン持ってきてくれたじゃない?

坪井: あと、オシャレしなきゃって、黒柳徹子さんからいただいたヴァイオリンのラベルピンを着けてきました。

福井: 黒柳さんとは、番組やコンサートで数多く共演してるよね?

坪井: 心配りと愛に溢れた素晴らしい方です。音楽にも造詣が深いしね。



▲ジャケットに着けたラベルピンは黒柳徹子氏からのプレゼント



▲慶應義塾高等学校ワグネル・ソサイエティー・オーケストラで演奏

福井: 人間観察力が秀でている方だから、それゆえの心配りなんでしょうね。ところで坪井君は、昔よくこの辺りに来ていたんだよね？

坪井: 祖父母の家が羽沢（武蔵野音大所在地）にあったから、しょっちゅうね。当時、隣のアパートからいつも綺麗な歌声が聞こえていたので理由を祖母に聞いたら、「この辺りは近くに音楽大学があるから、音大生たちがいっぱい住んでるのよ」って。それぞれ顔も名前も知らないんだけど、あの綺麗な歌声だけはずっと覚えてる。

福井: それが歌番組の司会者になるきっかけですかね（笑）。ヴァイオリンはいつから始めたの？

坪井: 実は、高校から（笑）。

福井: えっ？ 高校ワグネル（慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ。1901年に設立された日本最古のアマオケ）で始めたの？

坪井: 大学ワグネルと違って、高校は入団試験がなかったからね。元々母は音大を出て小学校の音楽の教員をやっていたので、私に楽器をやらせたがったのだけど、反抗期気味の私は母の言うことは常に嫌だ嫌だって（笑）。家にヴァイオリンもあったのに、蓋も触ったことがなかった。ところが慶應高校に入学した時にオケがあるのを知って、大勢の中で弾くならちょっとくらい下手でも、上手い人たちがカバーしてくれるだろうと思ったので、友達と一緒に見学しに行きました。その時ある先輩が「ちょっとやってみたら？」って声をかけてくれたので、「じゃあ、やってみます！」って弾いたら、なんと一発で綺麗な音が出ちゃった。そしたらその先輩が、今思えば絶対嘘なんだけど「お前は天才だぞ」って。「上手くなるから絶対ヴァイオリンやった方がいい」「そうしたら女の子にモテる」と。その3点セットで入部したわけです（笑）。

福井: 典型的な部活の勧誘手口じゃない（笑）。実は私もヴァイオリンを6歳からやっていたのでワグネルを見学しに行ったんだけど、週4回活動とか言われ、さすがにピアノの練習に支障があると思って断念したんだ。入部していたら隣で演奏してたかもね。

坪井: 本当だね。

福井: ヴァイオリンを始めるには、あまりに遅い感じがするけど…。

坪井: 高校ワグネルは、演奏会が年度末の1回だけだったので、近くの個人教室に通ったりしながら、実質半年ぐらいの期間でワー

グナーとヴェルディの管弦楽曲、そしてメインのブラームスの『交響曲第2番』の3曲をやるということになって。

福井: 普通初心者はそんな大作やらないけど、高すぎる目標が潜在能力を覚醒させたのか（笑）。

坪井: 教則本とかには一切触れずに、いきなりオケの第2ヴァイオリンの楽譜を与えられて、それをひたすら練習しました。

福井: よい子の音校生たちはマネしないようにしましょう（笑）。

坪井: 確かに！でも教則本から始めていたら、途中で嫌になっていたかもしれない。例えば生まれた赤ちゃんが言葉を覚えるのにテキストなんて不要だけど、大人になってから外国語を学ぼうといったって、なかなかモチベーションが上がらないのと一緒に。

福井: 友人たちと一緒にだったのは大きいよね。

坪井: 本当に必死で試行錯誤の連続だったけど、3月に先輩たちとステージに立ってブラームスを弾き終わった時の感動っていうのは、凄かった。「これがオーケストラだ、ステージだ」という興奮から、自然と涙は出るわ、鳥肌が立つわ。その瞬間から、私のこのクラシック音楽との人生がある。それこそ福井君と今こうやって話すっていうのもね。

福井: そして、番組でも^{そのか}唆されてたまにヴァイオリンの腕前を披露しているわけだね（笑）。高校の時、サントリーホール^{こけら}の柿落とし公演に行ったんだってね？



▲現在司会を務めるBS朝日『人生、歌がある』でもゲスト歌手のバックでヴァイオリンを披露(2025年5月)

坪井: 小澤征爾&ベルリン・フィルのチケットを徹夜で並んで手に入れました。あの時の『英雄の生涯』は最高でした。サントリーホールといえば、大学生時代はホール内でコーヒーを出すアルバイトをしていました。なぜレセプションニスト（案内・誘導）ではなく、カフェスタッフかというと、僕らが準備をしている間、ホールの中ではリハーサルが行われていて、その音が全部聞こえる。扉が開いている時は覗くこともできる。それこそ海外の一流オーケストラをね。まあアルバイト料は大したことないんだけど（笑）。

福井: レセプションニストのバイトをしている弟子がいるけど、お客様からクレームとかきて結構大変らしいね。

坪井: コーヒー担当は極めて平和。皆さん気持ちよくコーヒーを飲んだ（笑）。



▲大学3年次の1990年に英国に留学

福井：お客様は、極上の音楽は聴きたいが、めちゃくちゃ美味しいコーヒーを目的に来ているわけではない(笑)。

坪井：そうそう。つまり私にとっては極上のバイトでした(笑)。

福井：その役得経験からの流れで、隣の会社(テレビ朝日)に就職したわけですね(笑)。それは後で聞くと、大学時代にはロンドンに1年間留学していたよね？

坪井：大学ワグネルは年3回コンサートをやるから色々な曲ができたし、プロの指揮者や演奏家が指導に来てくださったので、完全にやる気スイッチが入った。ありとあらゆるCDを聴きまくり、ミニチュアスコアをヤマハで買いまくり(笑)。自然とヨーロッパや英語に関心が高まり1990年に思い切って留学しました。で、ロンドンのホストファミリーの家に着いたとき、たまたまファミリーが庭でパーティーをやっていて。持っていった楽器を見て「なんだそれ？ヴァイオリンじゃないか、弾いてよ！」って言われ、ちょっと弾いたらこれが大ウケ！英語もうまく話せないのに一気に皆さんとの距離が縮まって。音楽が世界共通言語というのはこういうことかと、肌で感じた瞬間でした。

久米宏氏に憧れてテレビ朝日に就職

福井：このまま音楽話で押し切ってもいいんだけど(笑)、大学卒業時にアナウンサーを志したのはなぜでしょう？

坪井：急に面接みたいな(笑)。私は一人っ子で、いわゆる「鍵っ子」だったんですよ。小学校が終わってから両親が帰宅するまでは、ずっと一人で留守番をしていて。もちろん友達と遊ぶこともあったけど、何が一番の友達だったかと言ったらやっぱりテレビだったのね。午後3時くらいからドラマの再放送を見て、夕方になるとニュースを見て、野球中継や、歌番組、欽ちゃんその他の番組を見まくっていた。なかでも久米宏さんの『びったしカン・カン』と『ザ・ベストテン』が大好きだった。

福井：観てたものが、まったく一緒ですね(笑)。

坪井：で、この人(久米宏さん)の仕事って何だろうって思ったわけ。それで親に聞いたらアナウンサーっていう仕事なんだと。こういう仕事に就きたいなっていう、うっすらとした憧れがその頃からずっとあった。

福井：実は私も久米さんと古舘伊知郎さんが好きで、少しだけ

アナウンサーになりたいって思ってた。

坪井：久米さんはちょうど私が高校の時、『ニュースステーション(1985年から2004年までテレビ朝日系列で平日22時から生放送されていた伝説的報道番組)』のメインキャスターになって。

福井：久米さん自身の言葉や感情を交えた語り、それまでの硬いニュース番組のイメージ・在り方を覆したよね。

坪井：で、大学4年になって就職活動をするにあたり元々アナウンサーになりたいし、久米さんに会いたくなって思って、テレビ朝日の採用試験に応募。

福井：わかりやすいですね(笑)。

坪井：運よくご縁をいただき、バイトで通ったサントリーホールの隣にあるテレビ朝日に就職しました(笑)。入社すると大体1年目の秋から番組に出演するようになるんだけど、私は何の因果か『ニュースステーション』のスポーツ担当になって！つまり、いきなり子供のころから憧れていた久米さんの右に座ることになったわけ。今まで誠実に生きてきたご褒美なのかな？って(笑)感動でした。

福井：それはミラクルだね。会いたいと思って入社できただけで凄いの、半年後にその方の隣で仕事するなんて。

坪井：しかもスポーツ担当は3年位変わらないので、ちょうど前任者が変わるタイミングの入社だったという強運で。

福井：角澤照治君(同局アナウンサー。2人の大学同期)は、坪井君の次のスポーツ担当？

坪井：そう、私が3年やった後ね。あ、角澤とは、福井君のことを前から「凄いよね」って話してて自慢の同期だよ。

福井：それはお互い様ですけど(笑)、ありがとうございます。久米さんって実際はどのような方でしたか？

坪井：すごく自分の世界を大事にしている方かな。硬軟自在のアドリブ力と軽妙な話術で、バラエティの要素を取り入れながらニュースを分かりやすく伝えてくれました。亡くなった今でも尊敬しています。

福井：黒柳徹子さんとの当意即妙な司会ぶりが見どころだった『ザ・ベストテン(1978年から1989年までTBS系列で放送され、最高視聴率41.9%を記録した歴史的な歌番組)』とならび、『ニュースステーション』はテレビ史における革命的な番組でした。

アナウンサーと演奏家の共通性

福井：30年以上の経験も踏まえ、アナウンサーに求められる能力について教えてください。

坪井：まず基本は言葉を正確に話すこと。例えばニュースで“事件”



▲入社2年目の1994年『ニュースステーション』出演時



▲現在、人気番組『グッド!モーニング』の総合司会を務める(2026年6月)

なのか“事故”なのかを正確にチェックする。視聴者からするとどちらも「大変なことだな」という位の捉え方かもしれないけど、報じる側にとってはこの2つは全く違う。例えば、交通事故は“事故”で終わることが多いが、運転手が逃げたとか、飲酒していたとか。そうなると事故から“事件”になる。警察の捜査が始まり「容疑者逮捕」を前提に取材も継続するので大きなニュースになっていく可能性が出てくる。他には“疑惑”と“問題”。これも混同して報じると大変なことになる。ある人に疑惑が浮上したとき、本当にそうなのかはまだ分からない。だから我々も取材をして本当だと裏付けができた時点で疑惑から“問題”に替えて報道を開始し責任を追及する。でも、疑惑の段階でいきなり“問題”と報じてしまうと、実際違った場合にその人の名誉を棄損することになる。本人が「あなた達は疑惑ではなく“問題”と報じていたじゃないか。そのせいでいろいろな損害を被った」と名誉棄損で裁判を起こせば、テレビ朝日の責任問題にも繋がる。言葉の使い方誰かを傷つけやしないか、そういうシビアな言葉遣いを私たちアナウンサーは日ごろから気を付けています。

福井: 以前、ブログで「ニュース原稿が間違えていて困った」とって。

坪井: 原稿を書く人たちが完璧ではないから。最終的なチェック・修正をするっていう役割と責任は、言葉のプロである我々にある。

福井: 原稿の表面的な文字だけでなく、背景や文脈を深く理解して伝えていく。教養や取材力が必要ですね。

坪井: そう。当然ニュースの内容も理解していなきゃいけない。昨日と今日で「何が進んでいるのか」というのも頭に入れなきゃいけない。

福井: 原稿の背景理解は、演奏家にとっての楽譜の深い読み込みに通じますね。華やかなパフォーマンスの裏には地道な事前準備が必要ということでしょう。放送中に「この原稿は大丈夫かな?」っていうのもあるってこと?

坪井: 正直、あるね。これは現場を責められない部分もあって。若い記者が増えていたり、早朝の時間帯って現場の人数も昼間と比べ落ちてしまうので、チェック機能が十分とは言えない。

福井: 明らかに誤りのテロップもたくさんあるし、あとはセンスが無いのもね。よく画面に向かってツッコンでます(笑)。あっ、『グッド!モーニング』の話ではないですよ(笑)。

坪井: でも今言ってくれたみたいに、視聴者からの反応で我々も成長できるというか。勝手なクレームもあるんだけど、中には「ああ、そう感じる人もいるのか」という貴重な意見もあって。減税増税話や中東情勢でも社会的弱者からの意見など異なる立場からの感じ方や指摘を得られることは、今の私の番組にとっては多様な視点の獲得と公平性の確保という点で、すごく有難いことなんです。

福井: 取材対象者や視聴者の人権擁護、不祥事の防止に繋がりますよね。ひいては報道機関としての信頼に直結する。

坪井: ぜひ気付いたら放送中でもいいので、「ここ間違ったんじゃない!?」とか「ここはどういうこと?」みたいに、どんどんLINEで送って(笑)。そうすればすぐにフィードバックできますので。

福井: 単純な言葉の言い間違いに対するご指摘は?

坪井: 失敗したことは多々あります。随分前に「何気に」って放送で言ったら、「そんな日本語はない!」とお叱りを受けました(笑)。あと最近はジェンダーに関する言葉遣いが、非常に難しくなっていて。

福井: “女優”って言わないとかってこと?

坪井: “女優”はもう使わず男女とも俳優という。“主演女優賞”はそのままなのに。キャッチャーに対する“女房役”もう駄目。あとは「雌雄を決する」。選挙でも使われているけど、雌=メス、雄=オス。男の方が強いから、勝った方が男で負けた方が女だという前提の表現になってしまう。ビジネスマンもビジネスパーソンだし、コメディアンも女性の場合はコメディエンヌって言う。なかなか難しい時代に入っていますね。



▲坪井アナ愛用のヴァイオリンは約300年前ドイツで製作されたオールド楽器

福井：社会の多様性や人権意識の変化そのものを映し出しているのだろうけど、一方で、例えば文学作品や歴史的な番組の表現にまで過度な自主規制がかかってしまうケースも議論されていますよね。いずれにせよ、コンプライアンスや視聴者の価値観の変化に合わせて言い換えが進んでいるのでしょうか。

坪井：ただ、やっぱり若いアナウンサーはそういった機微が全く分からないので、一つ一つ丁寧に教えていくのが私たちベテランの役目。

福井：分からない人には「もうこれで」って正解だけ教えればいいとは思わない？

坪井：それが一番簡単だけど、やはり音楽と一緒に言葉も歴史があるし、私たちの生活から生まれてきたものだからね。例えば私は“さようなら”っていう言葉の由来を新人に教える。「左様(さよう)ならば、またお会いしましょうね」って相手を気遣う気持ちからきています。当たり前に使っている言葉にも成り立ちがあり当時の人々の暮らしがあることを、少しでも頭の中に入れておいて欲しいなと。

福井：物事の原因を考えることは、問題の本質を見抜く重要なプロセスだよ。同様に当たり前を疑うこともね。自分自身の思い込み、バイアスも含め。だから、これから何事も疑ってかかるイヤな視聴者でいようかと(笑)。

坪井：ハハハ。毎日はLINEはしてこなくていいので(笑)。「これは!?」って時だけご教示いただいて。あと、いいこと! いいことって意外と褒められないから、どんどん褒めてほしい(笑)。

福井：では…『グッド! モーニング』は、シリアスな報道とエンタメ・気象などのソフトな情報のバランスが絶妙な構成ですね。時間帯ナンバーワンの視聴率の理由はそれかと。

坪井：さすが、よくわかっていらっしゃる(笑)。実は我々アナウンサーと演奏家には共通点があると以前から思っていて。文字って記号じゃない? 楽譜もやっぱり記号じゃない? 実際に喋って、あるいは実際に音にして初めて人の心に届く。作曲家の書いた楽譜と聴衆の間に存在するのが演奏家だとすると、記者やカメラマンが作った原稿、映像を視聴者に届けるための橋渡しをするのがアナウンサーの仕事だから。人に響くアナウンスのために、演奏家の人たちと同じような能力が必要じゃないかっていうのを、私はいつも思っています。音楽をやってきたからね。

福井：両者とも、単に原稿を読む、楽譜を音にするだけでなく、そこに感情や文脈を乗せて聴き手の感情や思考を動かすことを本質とする「表現者」ですね。日常的な基礎練習や綿密な準備のもと、ニュースの内容、あるいは作曲家の意図を汲み取り、発声・発音、スピードや間合い、抑揚の変化などで伝え方を変える。生放送やコンサートなど、やり直しがきかない緊張状態の中での強靱なメンタルが求められる点でも共通しています。私はアナウンサーをやっていませんが(笑)。

ベルリン・フィル土屋邦雄氏との出会い

福井：小澤征爾氏が、名著『ボクの音楽武者修行』の中で「ぼくたちはハメをはずして遊んだ」と触れている氏のベルリン時代の



▲日本人初のベルリン・フィル団員、土屋邦雄氏(ヴィオラ奏者)と渋谷で再会(1995年1月)

友人が、土屋邦雄さん(ヴィオラ奏者。日本人初のベルリン・フィル団員)と私の父の福井直敬。私が小さい頃、土屋さんが来日し我が家を訪問した時は、当時はドイツで珍しかったからか、いつもお土産にカップラーメンをコンビニまで買いに行っていました。

坪井：私の人生で大事な出会いの3人を挙げるなら久米さんと黒柳さんと、もう一人、土屋邦雄さん。大学ワグネルでベルリンへ演奏旅行にいった時に、ベルリン・フィルを聴きたいけどお金もチケットもなかったので、楽屋口で土屋さんを張って全く面識もないのに「日本から聴きに来ました」っていきなり無謀にも声をかけたら、「おー、じゃあちょっと待ってろ」って、結局その日も次の日もベルリン・フィルを聴かせてもらった上に、ご飯にも連れていってくれて。私がアナウンサーになってからも土屋さんが来日した時にはよく渋谷の小料理屋に飲みに来て行ってくれました。その後長らくご無沙汰してしまったので2019年かな、土屋さんがコンサートで指揮するというのを耳にして三鷹のホールに聴きに行ったんですよ。それで楽屋に突然行ったらもう凄く喜んで「ちょっとこれ見ろ」って。何かと思ったら私が出てるテレビの画面をカメラで撮った写真の数々。東京に来た時にはホテルで毎朝撮って、それをずっとカバンの中に入れているんだぞ! って。

福井：え、プリントアウトして?

坪井：そう。もう涙があふれて止まらなかった。

福井：それは感激だね。逆に土屋さんがもしご存命で、我々のこの対談を読んでもくれたら、きっと泣いて下さるね。



◀坪井アナが総合司会を務める『グッド! モーニング』中の人気気象予報士 依田司さんによる中継も実現(6月24日)

生放送での対応力

福井: 番組内での最大の失敗は?

坪井: これは私のせいじゃないんだけど、今も続いている『スーパーJチャンネル』という夕方のニュース番組のキャスターをやっていた時に、用意していた15分間のVTRが出なかったことがあった。「^{あゆ}鮎釣り解禁」っていう特集でね、今思えば鮎釣りでもよく15分も作ったなって思うけど(笑) これを流す予定だったのに、私が「VTRどうぞ!」って言うっても映像が出ない。とっさに目の前のスタッフを見たんだけど、そのスタッフは横向いて私から目を逸らすのよ(笑)。その瞬間に「あ、これは何か不手際が起きたな」って。「じゃあ、ちょっと繋がなきゃ」と思って、仕方なく「釣りは皆さんいかがですか?」って感じで繋ぎ始めた。ところが1分、2分、5分経っても全然ダメで、結局15分間! 私のワンショットで埋めることに。たまたま昔、父と鮎を釣りに行ったことがあったのでその経験をもう100倍に膨らまして、あとはひたすら謝りながら(汗)。

福井: 自分のミスではないのに必死なところが、視聴者の感動を呼んだんじゃない(笑)?

坪井: 入社5年目くらいだったけど、落ち込んだわ。でもその翌日、読売新聞にそれを見ていた人から「アナウンサーの真髄を見た」という内容の投稿が載っていた。

福井: 朝日新聞(テレビ朝日のグループ企業)ではなく、読売新聞に(笑)。

坪井: 地獄の15分間だったけども「よく頑張ったな」って褒めてくれる人がいるんだってということがとても救いだった。

福井: 先ほど触れた突発的な状況における対応力ですね。あれ? 失敗談だったのに、本当に感動話になってるし(笑)。

坪井: あはは。本当にやらかしたのは、『ニュースステーション』で、当時ケガで入院していたヤクルトの古田敦也選手が「退院」するっていうニュースを伝える時に、「古田選手が引退しました!」って言ってしまった。

福井: 自分で言い間違ったのは気づいてない?

坪井: 横にいた久米さんが私の手をガシッと掴んで、違うって合図してくれた。当時人気絶頂のスター選手を「引退です」と爽やかに全国放送で言っちゃって。翌日に古田さん御本人のところに謝りに行きました。

福井: ご存知だった?

坪井: 「引退さすなよ!」って笑いながら怒られました。

福井: 最後失敗談で終わるのもなんなので(笑)、学生にメッセージをお願いします。

坪井: 思えば今の自分を作ったのは間違いなく学生時代です。好きなものに好きなだけ時間を使い、腕を磨き、知識を蓄え、仲間を作り、恩師を作り、海外に出て国を知り、文化を知り、人を知る。失敗もできるしやり直しもできる。こんな時間は社会に出てからはありません。今のうちに10年後、20年後、50年後の自分に繋がる「一生モノ」を1つでも多く見つけて人生を豊かにしてください。今回ここを訪ねて、それが可能な場所に皆さんは今通っていると強く感じました。私も来世はここ武蔵野音楽大学に通おうと思います。



坪井直樹 Naoki TSUBOI

1969年東京都出身。慶應義塾大学卒業。1993年アナウンサーとしてテレビ朝日入社。「ニュースステーション」「ステーションEYE」等でスポーツコーナーを担当。その後キャスターとして「スーパーJチャンネル」「ANNニュース」等報道番組を主に担当し、現在は「グッド! モーニング」(月~金)のメインキャスターとしてニュース・スポーツ・エンターテインメント・生活情報など幅広いジャンルの進行を務めるほか、BS朝日「人生、歌がある」の司会等、多くの番組で活躍。これまで「徹子の部屋コンサート」のほか各コンサートや音楽祭などの司会を数多く務める。

福井直昭 Naoaki FUKUI

1970年東京都出身。慶應義塾大学卒業。武蔵野音楽大学大学院修了、ミュンヘン音楽大学留学。国内外で20を超えるオーケストラと協演し、クロイツァー賞、ブルガリア国際コンクール「Music and Earth」全部門グランプリ、ハンガリージュール市記念シルバーマダル、下總皖一音楽賞等受賞。現在、武蔵野音楽大学理事長・学長、教授のほか、日本私立大学協会常務理事、全日本音楽教育研究会会長、文科省大学設置分科会特別委員等を務め、音楽文化を教育・研鑽する大学の長として、音楽の枠に留まらない発信を常にしている。

2027年4月東京都で開校へ — 附属高等学校東京都より設置認可、新校舎竣工式挙行 —



① 外観 ② 入間キャンパスから移転したJ.S.バッハ像 ③ スポーツホール ④ バッハラウンジ
⑤ レッスン・練習室 ⑥ 福井直昭理事長自署の定礎板 ⑦ 竣工式神事 ⑧ 学園関係者および
設計・施工(株)長谷工コーポレーション関係者の皆様とともに新校舎完成を祝し記念撮影
※①～⑧の写真はすべて(株)エスエス 海谷征生 撮影

東京都より設置認可

学校法人武蔵野音楽学園が予てより東京都に設置認可申請書を提出しておりました「武蔵野音楽大学附属高等学校」について、2026年6月30日付けで東京都知事より学校設置の許可を受けました。本校は、武蔵野音楽大学の附属高等学校(音楽科)として、1973年に開校して以来、埼玉県入間市で教育活動を行ってまいりましたが、2027年4月に東京都練馬区に移転し、伝統ある本校のアイデンティティを継承しつつ、新たな価値を生み出す学校へと進化を遂げます。

また、東京都での開校とともに、3つの新しいコース(演奏コース/プログレスコース/音楽総合コース)を新設するなど、魅力ある運営・授業カリキュラムを提供し、音楽の力で自らの未来を切り拓く教育を実践します。さらに、新校舎は大学キャンパスから徒歩3分に位置するため、高大連携をさらに深化させ、附属高校生徒が大学の教員・学生と交流する機会を格段に拡充します。

新校舎竣工式挙行

晴天に恵まれた2026年4月28日、附属高等学校の新校舎竣工式が行われました。設計・施工を担当した(株)長谷工コーポレーション、および工事関係者列席のもと神事が厳かに執り行われ、今後の加護を祈願しました。その後、本プロジェクトに携わった関係者への慰労の意味もこめて直会(なおりい)が開かれ、福井直昭理事長は、山積する諸課題を乗り越え附属高校の東京都への移転が実現した経緯、および閑静な住宅地に新時代の音楽教育に適した立派な校舎を建設できたことに対する感謝を述べました。次に、施工主代表の(株)長谷工コーポレーション 熊野聡代表取締役社長から「建学の精神“和のこころ”を随所に感じられる立派な校舎が竣工したことを大変嬉しく思います」という祝辞をいただいた後、関係者は懇親の時間を共にしました。最後に福井理事長発声のもと出席者全員で勢いのある三本締めをし、希望に溢れた雰囲気の中閉会となりました。

本校舎は、来春、校舎前に植樹された桜が咲き誇る頃、ここに集う生徒たちによってさらなる輝きを増すことでしょう。

新校舎見学 ツアーも実施

附属高等学校オープンキャンパス

内容：学校紹介、生徒による歓迎演奏、体験授業・レッスン、新校舎見学ツアー他
2026年10月18日(日) 2027年3月21日(日) *詳細はウェブサイトをご覧ください。



100周年へ歴史をつなぐ 「武蔵野音楽大学歴史展示室」が オープン!

2026年4月1日、3年後に控えた創立100周年記念事業の第一弾として、「武蔵野音楽大学歴史展示室」が誕生し、ヴェルディロビーにてオープニングセレモニーが執り行われました。これは、旧キャンパスにあった「学園記念室」をもとに、本学の歩みや建学の精神を学内外の皆様により深く知っていただく場として、新たに整備・開設されたものです。



展示室は、創立から現在に至るまでの発展の歩みが時系列で紹介されています。中央には、創立間もない頃の学校の雰囲気が感じられる調度品や校旗などが配置され、当時の様子を身近に体感できる空間となっています。また、旧江古田キャンパスや入間キャンパスの模型をはじめ、創立者・福井直秋の功績を伝える自筆譜や著書のほか、演奏会プログラム、手紙、写真など、本学の貴重な資料約250点をご覧になることができます。中でも学園史前半の展示では、福井直秋が遺した「言葉」の数々がパネルで紹介され、戦前から

戦後の激動の時代において、教育者として情熱を注いだ創立者の人物像、またその根底にある理念が、見るものにわかりやすく伝わるよう工夫されています。その言葉の一つ一つから、本学が大切にしてきた建学の精神や教育方針の源流を感じていただけることでしょう。

さらに、この展示室は今年度から授業でも活用されています。1年生全員を対象とした「キャリアデザイン（導入編）」において、本学の歴史や教育理念を学ぶことで、大学への理解を深め、愛校心を育むとともに、人生という長い時間軸の中で大学時代の意義を考え、自らの4年間で主体的に築いていくことを目的としています。

受講した学生からは、「和のこころ」の精神が創立期から脈々と受け継がれてきたことや、その教育理念に込められた真意に感銘を受けたという声が多く寄せられました。また、「音楽家としてだけでなく、一人の人間としても成長したい」との決意も聞かれ、本学の歴史を学ぶことが、自らの将来を見つめ直す貴重な機会となっていることがうかがえます。



武蔵野音楽大学創立 100 周年記念ロゴマークが決定



本学は来る2029年に創立100周年を迎えます。これを機に、日本で最初に音楽大学として認可された本学の節目を象徴する「100周年記念ロゴマーク」を制定しました。しっかりと地に立つ大学名の頭文字「m」と、その足元に伸びる影の組み合わせにより形成された「100」の文字は、本学の100年に及ぶ確かな歩みと、輝ける未来へ向かって挑戦し続ける精神を表現しています。洗練されたモノトーンによる格調高いデザインの「100周年記念ロゴマーク」は、高貴さ・

創造性を連想させる紫色と、情熱・活力をイメージさせる赤色を使用した「学園ロゴマーク」と一体化させて使用します。両者のコンビネーションは、建学の精神「〈和〉のこころ」や教育方針「音楽芸術の研鑽と人間形成」を、次の100年を担う世代へしっかり継承していくことを誓う決意の表明でもあります。本学では、「100周年記念ロゴマーク」を今後展開する記念事業などに活用し、大学の歩みと未来像を広く発信していく予定です。

キャンパスガイド&ハイスクールガイド リニューアル

「キャンパスガイド2027」(大学パンフレット)並びに「ハイスクールガイド2027」(附属高校パンフレット)がデザインを一新して発行されました。新キャンパスガイドでは、本学の魅力である、各学科およびコースのカリキュラムや特色、施設の紹介など、より分かりやすさにこだわったデザインとなっています。新しくなった公式ウェブサイトとも連動した一体感のあるデザインも特徴です。また、新ハイスクールガイドでは、来年度より東京都練馬区に移転する新校舎の施設紹介や新カリキュラム、卒業生と在校生の対談やスクールライフなど盛りだくさんな内容を掲載しています(※高校移転については本誌7頁参照)。

これまでに資料をご請求いただいた方、イベントにご参加いただいた方には順次発送しておりますので、お手元に届きましたらぜひご確認ください。大学、高校ウェブサイトでもご覧いただける他、資料請求も可能です。



Jリーグオールスター記念スペシャルムービー撮影協力



17年ぶりに開催されたJリーグオールスターゲーム。その復活を記念したスペシャルムービーが、本学ベートーヴェンホールにて撮影されました。6月13日にMUFGスタジアム(国立競技場)で開催された「JリーグオールスターDAZNカップ」で初公開された本動画は、音楽と過去の映像が見事に調和しており、長年のファンの胸を打つ、感動的な作品に仕上がっています。動画はJリーグ公式のYouTubeチャンネルでご視聴いただけます。

大学音楽学部、大学院、別科令和8年度入学式

4月1日、ベートーヴェンホールにて令和8年度大学音楽学部、大学院音楽研究科、別科の入学式を挙行了しました。

式典は、オルガンの前奏に始まり、新入生に向けて、福井直昭理事長・学長より多くの示唆と導きに富んだ式辞が述べられました。続いて、音楽大学ならではの華やかな奏楽による歓迎で、新入生の新たな門出を祝いました。新入生の皆さんが本学で多くを学び、深めていくことを期待します。



附属高等学校令和8年度入学式

4月2日、ブラームスホールにて令和8年度附属高等学校入学式を挙行了しました。国歌斉唱の後、武蔵野音楽大学学長・本校校長の福井直昭より式辞が述べられました。和やかな雰囲気の中、新入生たちは期待に満ちた晴れやかな表情で新しいスタートを迎えました。



附属高等学校日米高校生交歓コンサート&サマーアンサンブルコンサート

6月11日、米国ウォーソー・イースト&ウェスト高校のシルバーストリングスの皆さんと〈日米高校生交歓コンサート〉を行いました。ウォーソー・イースト&ウェスト高校シルバーストリングスの皆さんは弦楽アンサンブルを、本校は全校生徒による混声合唱を披露し、お互いの演奏を称え合いました。コンサート終了後は、それぞれの高校生活

について話し合ったり、プレゼント交換を行うなど、両校の親睦が深まる貴重な機会となりました。また、7月4日にはサマーアンサンブルコンサートをブラームスホールにて行いました。学内のみの公開でしたが、多くの保護者や卒業生にご来場いただき、さまざまな形態によるアンサンブル授業の成果を発表することが出来ました。



附属幼稚園各種行事

園庭の桜の花びらが満開の中、新年度が始まりました。進級児たちはみな笑顔で登園し、毎日の楽しい日々を過ごしています。4月には第一、第二幼稚園合同の交流会も行われ、園児同士のこころの距離を縮める機会となりました。各園では春の遠足にも出かけ、動物たちとの触れ合いや餌やり体験、また、大型遊具による遊びなど、大興奮の体験となりました。さまざまな経験を重ねながら子どもたちは日々すくすくと成長しています。



2026年4月から7月に開催した演奏会

※肩書は演奏会時のものです。

令和7年度 音楽学部卒業生新人演奏会

(開催日) 2026年4月17日(金)

(会場) ブラームスホール

出演=本田有加莉(Mar.)、藤井桜子(Trp.)、三友 優(Pf.)、
長根萌生(Vln.)、長嶋穂乃香(M-Sop.)、松元駿介(Fl.)、
曾田美音(Pf.)



ニュー・ストリーム・コンサート58 ～ヴィルトゥオーゾコース演奏会～

(開催日) 2026年6月11日(木)

(会場) ブラームスホール

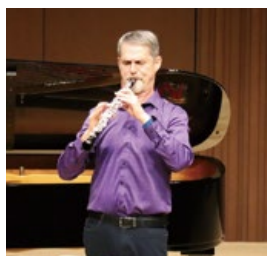
出演=宮崎俊輔(Fl.)、菊竹和輝(Pf.)、後藤紫織(Vln.)、
増田 桃(Vln.)、大宮みゆら(Sop.)



ダヴィッド・ワルター オーボエ・コンサート & 公開レッスン

(開催日) 2026年5月13日(水)

(会場) ブラームスホール



ケマル・ゲキチ名誉教授 ピアノ・リサイタル

(開催日) 2026年6月26日(金)

(会場) ベートーヴェンホール



令和7年度 大学院修士課程修了生新人演奏会

(開催日) 2026年5月15日(金)

(会場) ブラームスホール

出演=菅野まち(Fl.)、金谷知歩(Pf.)、姜 鋭(Ten.)、
呉 錦華(Vlc.)、恒本優花(Pf.)



ウィンドアンサンブル演奏会

指揮=チャド・ニコルソン(本学客員教授)

PROGRAM

ジョン・ウィリアムズ: リバティ・ファンファーレ

コーブランド: コーブランド・ポートレイト

阿部勇一: 交響詩《鯨と海》

ショスタコヴィチ: 交響曲 第5番より 終楽章 他

北海道公演

(開催日) 2026年7月11日(土)

(会場) 北ガス市民ホール(北見市民会館) 大ホール

東京公演

(開催日) 2026年7月16日(木)

(会場) 東京芸術劇場 コンサートホール



ロバート・ダヴィドヴィッチ客員教授 ヴァイオリン・リサイタル

(開催日) 2026年6月8日(月)

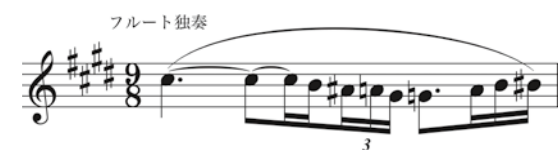
(会場) ブラームスホール

ピアノ=小池ちとせ(本学教授)



牧神のあくび? ～ドビュッシーの楽器用法～

ドビュッシーの《牧神の午後への前奏曲》（1894年初演）は、詩人マラルメの詩「半獣神の午後」に基づく管弦楽作品で、冒頭のフルート独奏による半音階と全音音階を絶妙にとり混ぜた旋律が強く印象に残ります（譜例1）。その開始音となる長めの嬰ハ音はフルートの構造上不安定な音になりやすく、さらにゆったりと4小節近い主題を一息で演奏することが当たり前となった今日では、奏者にかかる心理的負担は小さくありません。ドビュッシーが出だしにそのような音を選んだのは「不安定になりやすい音」を「うつろいゆく幻想的な情景」の出発点として重ね合わせたと考えるのが自然でしょう。つまり鳴り響きにくい音さえも表現の一つとして音楽を支えているのです。



▲【譜例1】

実はホルンでも気になる用法があります。前述のフルートの旋律の下に現れる2本のホルンによる低いホ音で、ホ長調の主音でもあります（譜例2）。全110小節中21小節目と94小節目の2箇所、特に最初はチェロの下に置かれ、保続的バス音として扱われています。この音も決して出しやすい音ではありません。しかも低域で奏でられ、聴衆に気づかれにくい用法ですが、

敢えて「気づかない領域」を狙った効果とも考えられます。ホルンは森の楽器、ルーツは角笛、牧神（半獣神）が出没するのは森や山、自然深い場所。聴衆は牧神の不思議な音色の笛に導かれ、夢とうつつの世界を行き来します。ここでのホルンはもう一つの笛（角笛）の音として、隠された境界線のような役割を与えられているとは考えられないでしょうか？生演奏の場に身を置くと、作曲者は空間的な響きをも計算していたと感じずにはいられません。筆者はこの部分を「牧神のあくび」と敬愛を込めて呼んでいます。

ドビュッシーがこの作品を通して後世に与えた語法の影響は大きいとされますが、楽器用法においてもラヴェルやストラヴィンスキーをはじめ、現代の音楽にもその影響とつながりが見えてくるのです。



▲【譜例2】

楽器ミュージアムレター

エラルルのハープと彫刻「天地への讃歌」

エラルル社製作 1825年頃 パリ

ベートーヴェンホールホワイエ正面には、黄金の輝きに満ちた気品あふれるハープのブロンズ彫刻が設置されている。これは、文化勲章を受章した日本彫刻界の重鎮である富永直樹氏が1985年に制作した「天地への讃歌」という作品である。本作は長崎県美術館や府中の森芸術劇場など各地で多数見ることができるが、本学の作品はその記念すべき第一号にあたる。

制作にあたり富永氏は、本学楽器ミュージアムが所蔵するハープ群の中から、エラルル製ハープを選定し、当時の本学学生が演奏モデルを務めて、この見事な彫刻が誕生したという逸話がある。

モデルとなったこの楽器は、ブドウの葉や蔓がらせん状に巻かれ、金箔が施された優美な支柱に特徴がある。また、下部には左右にライオンが配置され、18世紀後半のフランス宮廷文化を彷彿とさせる華麗で洗練されたデザインである。産業革命で台頭した富裕層は、かつての華やかな宮廷文化への憧れや社会的ステータスを誇示する目的で、さまざまな分野で貴族文化をリバイバルさせたが、この楽器もまさにその潮流を汲む「ルイ16世モデル」と呼ばれる逸品である。

この楽器が製作されたエラルル社は、セバスチャン・エラルル（1752-1831）によって1780年に創業された。彼は今日のピアノアクションの基盤となった「ダブル・エスケープメント」



機構を発明した天才楽器職人として知られるが、実はハープの分野でも、ペダル操作によって音を上下に半音ずつ変化させられる「ダブル・アクション」機構を発明した人物でもある。この技術革新により、ハープの表現力は飛躍的に向上し、現代へとつながる発展を遂げたのである。

2017年にリニューアルされたベートーヴェンホールと共に「天地への讃歌」は今もホワイエで気高く歌い続けている。

ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園は、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金（2026年3月31日までは武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金、2026年4月1日からは武蔵野音楽学園創立100周年記念事業寄附金）を募集しましたところ、下記の方々（他に匿名を希望される方37名）よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

学校法人 武蔵野音楽学園

武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金

同窓生 板垣千穂子様 田中路恵様 長谷部礼子様 若井和子様

役員・教職員・一般・他 高田千絵様

武蔵野音楽学園創立100周年記念事業寄附金

在学生・同ご父母

為郷量淳様 岩谷義彦様 小出浩丸様 新田英昭様 松村祐嗣様
井原菜穂子様 小野新一様 河野大作様 濱本明子様 丸本 伸様

同窓生

石居和夫様 内野公子様 衣川斗美子様 佐藤節子様 高原光代様 外岡久子様 林 秀樹様 三浦豊子様 山田小夜子様
石居真知子様 小川眞理子様 木全雅子様 佐野悦郎様 竹久保明子様 長崎裕子様 林 裕美子様 美濃羽有子様 山田 一様
石渡保子様 加藤智子様 久米敏子様 清水美希様 竹中晶子様 中谷 勉様 藤本美佐子様 宮岡千栄子様 吉田祐美子様
伊藤征夫様 金本美恵子様 小竹正子様 鈴木秀子様 田中昭徳様 中塚英一様 星野るみ子様 森 雅子様 吉谷典子様
伊藤純子様 川口俊子様 後藤 薫様 関 弓子様 道家素子様 永原美奈子様 牧野利子様 森田恵理様 李 正堯様
内川章子様 川辺宣子様 小松孝子様 高橋澄子様 戸崎美穂様 中村俊輔様 正宗陽子様 森田久美子様 渡辺しげこ様
打越孝裕様 川本嘉子様 阪本厚子様 高原和子様 戸田仰子様 島山由美様 馬渡芳子様 安永明子様

役員・教職員・一般・他

池澤佳代子様 上原正子様 佐藤恩実様 谷 友博様 中川俊宏様 本庄 忍様 山城浩一様
井上久美子様 大野道江様 重松 聡様 築田きり子様 原田知子様 山口道子様 横地ちひろ様
上原 明様 奥田 操様 田代愼之介様 戸田昌良様 日高正枝様 山路 譲様 吉田静邦様

※ご芳名（五十音順）は、2026年1月1日から2026年7月23日までに寄附いただいた方々です。

それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきます。何とぞご了承ください。

※本学ウェブサイトからも、クレジットカード決済によりご寄附のお手続きができます。是非ご利用ください。

2026年度イベント情報

オープンキャンパス		
開催日	主な実施内容	会場
2026年10月18日㊥	ガイダンス(大学案内)、附属高等学校説明会、体験レッスン、学生によるコンサート、 キャンパスツアー、体験授業、質問コーナー、他	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス
2027年 3月21日㊥		
小中高生のためのステップアップ・レッスン＆指導者のための特別講座		
開催日	内容	会場
2026年10月 4日㊥	ピアノ・声楽・管楽器・打楽器・弦楽器の個人レッスン 個別相談	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス
2026年11月29日㊥		
2027年 2月14日㊥		
2026年11月29日㊥	指導者のための特別講座 声楽・吹奏楽(管打楽器)	
2027年 2月14日㊥	指導者のための特別講座 ピアノ・弦楽器	
管打楽器アンサンブルクリニック		
開催日	内容	会場
2027年 1月17日㊥	コンサートホールでの演奏体験、 本学教員による講評	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス
受験講習会(大学・高校)		
開催日	講習会名	会場
2026年12月25日㊥～27日㊥	冬期受験講習会	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス
2027年 3月26日㊥～28日㊥	春期受験講習会	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス
音楽指導者セミナー		
開催日	主な実施内容	会場
2026年10月11日㊥	楽器や声楽などの指導者、小学校・中学校・高等学校の先生を対象としたセミナー 全11講座を開講	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス

※事前申し込みが必要です。詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。

【資料請求】本学ウェブサイト内の「資料請求フォーム」からお申し込みいただくか、本学広報室(TEL.03-3992-1125)へお電話にてご請求ください。

【お問合せ】武蔵野音楽大学 入学センター TEL. 03-3992-2500(平日 9:00～17:00) E-mail:nyugaku-c@musashino-music.ac.jp

Musashino Topics

▶ 渡邊規久雄本学特任教授
フィンランド獅子勲章
一級騎士章受章

このたび、渡邊規久雄本学特任教授がフィンランド政府（大統領）より『フィンランド獅子勲章一級騎士章 (Knight First Class, Order of the Lion of Finland)』を受章しました。氏はフィンランド出身の作曲家シベリウスの研究の第一人者として、演奏や後進の育成を通じ、日本におけるシベリウス音楽の普及に情熱を注いでこられました。今回の受章は長年にわたる両国の文化交流への多大なる功績が評価されたものです。謹んでお慶び申し上げます。

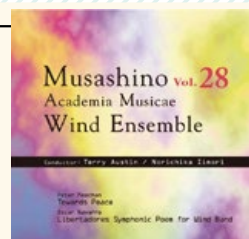
2026年10月から2027年3月に開催の演奏会

10月10日④ (14:00)	陸上自衛隊中央音楽隊&武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル キャンパスコンサート2026 曲目=第1部 武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル 指揮=武田 晃(本学講師) ネルソン:ソノラン・デザート・ホリデー ナウリン:メーカーズ・マーク 他 第2部 陸上自衛隊中央音楽隊 指揮=志賀 亨(隊長/1等陸佐) ヴァンデルロースト:マーキュリー スミス:月への12秒 他 第3部 合同演奏 リード:アルメニアン・ダンス パートIIより ロリの歌 他	ベートーヴェンホール (江古田)	無料(全席自由・要予約)
10月15日⑥ (18:30)	ファブリス・モレティ サクソフォーン・コンサート&公開レッスン ピアノ=通訳=服部真理子 曲目=マルティニ:愛の喜び リュエフ:シャンソンとバスビエ トマジ:バラード ブーランク:トリオ 共演=栃尾克樹(Bar.Sax./本学教授)	ブラームスホール (江古田)	¥2,000(全席自由)
10月21日⑥ (18:30)	ニュー・ストリーム・コンサート 59 〜ヴィルトゥオーゾコース演奏会〜 出演=岩下柚貴(Hrp.)、川原 潤(Vlc.)、久保舞華(Fl.)、大竹 豊(Bar.)、瀬良杏奈(Pf.)、福住沙稀(Fl.)	ブラームスホール (江古田)	無料(全席自由)
11月19日⑥ (19:00)	ニュー・ストリーム・コンサート 60 〜ヴィルトゥオーゾコース演奏会〜 出演=常盤るりか(Pf.)、程 志通(Vlc.)、小泉香奈(Fl.)、望月崇史(Vln.)、高瀬心優菜(Trp.)、岸田結花(Fl.)	TOPPANホール	¥1,500(全席自由)
11月20日④ (18:30)	崔 文洙客員教授ヴァイオリン・コンサート&公開レッスン ピアノ=水野ゆみ(本学講師) 曲目=ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ 第2番 Op.100 R.シュトラウス:ヴァイオリン・ソナタ Op.18	ブラームスホール (江古田)	¥2,000(全席自由)
11月27日④ (18:30)	管弦楽団演奏会 指揮=飯森範親(本学客員教授) 合唱指揮=佐藤洋人(本学講師) 合唱=武蔵野音楽大学女声合唱 曲目=メンデルスゾーン:交響曲 第3番 イ短調 Op.56 (スコットランド) ホルスト:組曲《惑星》Op.32	東京オペラシティ コンサートホール	一般¥1,500/ 小中高生¥1,000(全席指定)
11月29日⑧ (15:00)	第17回音楽大学オーケストラ・フェスティバル2026 武蔵野音楽大学管弦楽団(同日出演:東京音楽大学) 主催=音楽大学オーケストラ・フェスティバル実行委員会 ミューザ川崎シンフォニーホール 東京芸術劇場 指揮=飯森範親(本学客員教授) 合唱=武蔵野音楽大学女声合唱 曲目=ホルスト:組曲《惑星》Op.32	東京芸術劇場 コンサートホール	¥1,500(全席指定) お問い合わせ: 東京芸術劇場ボックスオフィス TEL:0570-010-296
12月4日④ (18:30)	アートマネジメントコース企画制作公演 和歌と音楽、千年の想ひ〜言葉が旋律に変わる夜〜	ブラームスホール (江古田)	無料(全席自由・要予約)
12月8日④ (18:30)	室内合唱団演奏会 指揮=片山みゆき(本学講師)、佐藤洋人(本学講師)、ピアノ=齋藤誠二(本学講師) 曲目=マリー・シェーファー:ミニワルカ 三善 晃:混声合唱とピアノのための《その日-August 6-》 高田三郎:混声合唱組曲《心の四季》 他	ベートーヴェンホール (江古田)	¥1,000(全席自由)
12月18日④ (18:30)	ウィンドアンサンブル演奏会 指揮=現田茂夫 曲目=真島俊夫:三つのジャボニスム リード:ロシアのクリスマス音楽 ジャンニーニ:交響曲 第3番 他	東京芸術劇場 コンサートホール	一般¥1,500/ 小中高生¥1,000(全席指定)
1月7日④ (19:00)	パシフィックフィルハーモニア東京 第186回定期演奏会(本学合唱団共演) 主催=(一般社団法人)パシフィックフィルハーモニア東京 指揮=角田鋼亮(本学講師) 合唱指揮=藤井宏樹(本学客員教授)、佐藤洋人(本学講師) ソリスト=ソプラノ:富永果捺子、バリトン:大山大輔 合唱=武蔵野音楽大学合唱団(フォーレ:レクイエム ニ短調 Op.48 共演)	東京芸術劇場 コンサートホール	S:¥7,500 A:¥6,000 B:¥5,000 C:¥4,000 U25:¥1,500 お問い合わせ: (一社)パシフィック フィルハーモニア東京 TEL:03-6206-7356
3月12日④ 3月13日④ (13:00)	令和8年度卒業演奏会	ベートーヴェンホール (江古田)	無料(全席自由)

※やむをえない事情により、開催日時・出演者・曲目等を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。※チケットは本学ウェブサイトより購入できます。
●お問合せ 演奏部 TEL:03-3992-1120 ●武蔵野音楽大学ウェブサイト <https://www.musashino-music.ac.jp/>

武蔵野音楽大学 ウィンドアンサンブル CD 最新盤の発売

本学ウィンドアンサンブルのCD Vol.28 が、ブレーン株式会社から5月15日に発売されました。2025年度の定期演奏会のプログラムからデヴィッド:エ・アラ・エーやハープ:ザ・リターンに加え、世界初演のミーキャン:平和に向けてのほか、全7曲が収録されています。(指揮=テリー・オースティン、飯森範親) お求めはお近くの販売店または、本学演奏部窓口にて販売しています。(税込2,530円)



Contents Vol.149 2026

- 1 特別対談 坪井直樹(テレビ朝日 アナウンサー)× 福井直昭 理事長・学長
「聴き手の感情や思考を動かす表現者として」
-
- 7 2027年4月東京都で開校へ —附属高等学校東京都より設置認可、新校舎竣工式挙行—
-
- 8 100周年へ歴史をつなぐ「武蔵野音楽大学歴史展示室」がオープン！
-
- 9 Musashino News 武蔵野音楽大学創立100周年記念ロゴマークが決定
キャンパスガイド&ハイスクールガイド リニューアル
Jリーグオールスター記念スペシャルムービー撮影協力
大学音楽学部、大学院、別科令和8年度入学式
附属高等学校令和8年度入学式
附属高等学校日米高校生交歓コンサート&サマーアンサンブルコンサート
附属幼稚園各種行事
2026年4月から7月に開催した演奏会
-
- 12 音楽の万華鏡 No.63 牧神のあくび?〜ドビュッシーの楽器用法〜
楽器ミュージアムレター エラルのハープと彫刻「天地への讃歌」
-
- 13 Campus Information ご寄付をいただいた方々
2026年度イベント情報
2026年10月から2027年3月に開催の演奏会
Musashino Topics

表紙の写真

ステンドグラス「静日」:ベートーヴェンホール3階ロビー壁面に埋め込まれた4作品のうちのひとつ。ヨーロッパの古城を題材に、日本画と洋画を巧みに融合した西村龍介(1920-2005)画伯の作品を、(株)松本ステンドグラス製作所がガラスの光彩を生かして新たに表現したもの。穏やかな色彩が行き交う人々の目を楽しませてくれます。



学校法人

武蔵野音楽学園

江古田キャンパス

〒176-8521 東京都練馬区羽沢 1 丁目 13-1
TEL. 03-3992-1121 (代表)

入間キャンパス

〒358-8521 埼玉県入間市中神 728
TEL. 04-2932-2111 (代表)

パルナソス多摩

〒206-0033 東京都多摩市落合 5-7-1
TEL. 042-389-0711 (代表)

武蔵野音楽大学大学院

博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学別科

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

附属音楽教室 江古田・入間・多摩

武蔵野音楽大学ウェブサイト <https://www.musashino-music.ac.jp/>